太白支部

四月十二日十一時より、太白区西多賀の三神峯公園にて、太白支部主催の観桜会を開催した。

二〇一七年の芋煮会に続いての屋外行事となり、東北学院同窓会の支部の行事としては珍しい催しとなった。来賓として東北学院同窓会より峯岸良慥副会長をお迎えし、また、太白支部以外の仙台市内他支部やお隣の名取支部からも参加者があり、総勢二十六名となった。

屋外イベントゆえに天気を心配したが、当日の明け方に小雨が降って午前中は少し肌寒かったものの、正午以降は晴れてきて暖かく、満開の桜のもと十一時の開始から十六時まで、秋保の「さいち」名物のおはぎとオードブルを楽しみながら、持ち込んだお酒が尽きるまで懐かしい話も交えつつ、桜を愛でた。

また、今回の大きな特徴は、四十代の若い会員三名が企画から早朝の場所取りまですべてを引き受けてくれたことである。それぞれ家族を同席させており、未来の同窓生になるかもしれない小さい子どもたちが楽しそうにしていた。

今後も支部総会の他にユニークな行事を提案していきますので、太白区と近隣にお住いの同窓生はぜひご出席をお願いいたします。

〈事務局〉

行政書士TG会

昨年秋の行政書士TG会総会において、春の懇親会を四月に、秋の総会を十月に開催することとしていた。今回は来賓として、東北学院同窓会会長森山博様、学校法人東北学院校友課係長をお迎えして、四月十九日十七時三十分から、「桜まつり」が行われていた榴岡公園近くの「酔って粋なよ榴岡店」にて出席者二十三名で開催した。

熊谷仁憲先生の司会により、次第に従い、法学部同窓会副会長でもある菊地茂先生が開会を告げ、先人の先生方への黙禱に続き、行政書士会の佐々木薫会長があいさつされた。この後、森山同窓会会長からのご祝辞の中で、OBとして同窓会をもっと盛り上げ、交流を盛んにして、母校に貢献しようとのお言葉をいただいた。ご来賓紹介の後、山形会の今田早百合先生が許認可業務についてのお話をしたのち、乾杯発声し、歓談となった。出席者から順次に自己紹介、近況報告がなされ、改めて行政書士業務の幅広さ、奥深さを感じる楽しい懇親の時間を過ごした。終盤となり、校歌一番二番斉唱のあと当会の五十嵐講一副会長が閉会のあいさつを述べられ、今回も大盛会のうちにお開きとなった。

〈事務局　森　明彦〉

次回は十月十八日(土)に秋の総会を予定しています。行政書士試験合格者も含めて、全国から会員を募集中です。
事務局☎〇八〇―〇八〇〇―七七五三までご連絡頂ければ幸甚です。

第8回 東北学院中学校・高等学校同窓会 支援ゴルフ大会

同窓会設立後、八回目となる伝統の第三十七回ゴルフ大会が、六月四日、西仙台カントリークラブにおいて、五十七名が参加し開催された。午前中は曇り空だったが、午後からは東北学院色の「ブルー」の晴天に恵まれ、最高のゴルフ日和となった。

今回から大会の名称が、母校への「支援ゴルフ大会」に変更になった。「三四郎会」の熊谷康氏、須藤直照氏、阿部益知氏の先輩をはじめ、「平成二十六年会」の三浦僚氏まで、二十七学年の同窓生が集合し、和気あいあいとした、まことに楽しい大会だった。

優勝は「TG五七会」の佐村直氏で、第二位は「TG獅子(四四)会」の渡辺道夫氏、第三位は「TG獅子(四四)会」の澤口廣章氏、第四位は「TG五七会」の佐々木隆之氏、第五位は「TG五七会」の阿部誠氏だった。ベストグロスは「TG五七会」の佐々木隆之氏で七十九のスコアだった。また、今回から大会名称が「支援ゴルフ大会」になったことで、大会の参加者からの母校への「支援金」が寄せられ、阿部賀寿男中・高同窓会会長が母校に寄付したことを報告した。

〈TG三八会　武田信将〉

「TG三七会」の加藤昌宏氏が八十一のスコアを出し、エージシュートを達成した。

当日には、多くの同窓生の方々から数多くの協賛品をご提供いただき、素晴らしい大会になった。

また、

★大会結果

順位	氏　　名
優　勝	佐村　　直 氏〔TG五七会〕
第2位	渡辺　道夫 氏〔TG獅子(四四)会〕
第3位	澤口　廣章 氏〔TG獅子(四四)会〕
第4位	佐々木隆之 氏〔TG五七会〕
第5位	阿部　　誠 氏〔TG五七会〕

★ベストグロス

佐々木隆之 氏〔TG五七会〕【79】

★エージシュート

加藤　昌宏 氏〔TG三七会〕【81】

白石支部

六月七日、白石市の「和み処ももの木」において白石支部総会・懇親会が開催された。

総会は沼倉啓介支部長を議長に議事に入り、用意された五つの議案は全て承認可決された。最後に、藤本邦夫副支部長の閉会あいさつをもって、総会は無事終了した。

懇親会では長橋和夫幹事長の司会のもと、沼倉支部長のあいさつ、来賓を代表して福野光輝人間科学部長より大学の近況報告を兼ねてごあいさついただいた。続けて、村上博美氏のご発声により乾杯を行い懇談となり、来賓の福野学部長、石川学庶務部次長を交えて多岐にわたる懇談が行われ、和やかな雰囲気での懇親会となった。

そして会の最後に、出席者全員で校歌を斉唱し閉会となった。

〈事務局〉

工学部機械TG会

―45年ぶりの再会も実現し、貴重なひと時を過ごす―

青葉通りの木々も緑濃くなる季節の6月7日、「TKPガーデンシティPREMIUM」を会場に46名が集い、第33回工学部機械TG会が実施されました。ご多忙な中、工学部長の岩谷幸雄先生および機械知能工学科長の熊谷正朗先生、校友課主査の三澤康士氏にご臨席いただきました。さらには、記念講演会として本学名誉教授の鶴本勝夫先生を講師にお迎えし、「東北学院存続苦渋の決断」という題名で貴重なご講演をいただきました。

総会議案（第1号議案から第5号議案）については、報告および審議が滞りなく終了しました。そして、役員改選として新会長に千葉幹郎氏が着任し令和7年度工学部機械TG会がスタートしました。

鶴本先生の講演では、戦時中の大学の状況および工学部の礎となった航空工業専門学校の存在などの秘話を拝聴することができました。改めて本学の「建学の精神」の意義を知ることができました。

懇親会では、大学全体と学部からの状況報告などをいただき、さらなる大学の発展を祈念しました。今回は、第5回卒業生および第15回卒業生への呼びかけを重点的に行いました。特に15回生の参加者は7名で、各人から一言メッセージがあり、遠くは宇都宮市や水戸市からの参加であることが紹介されました。15回生の参加は幹事の三島氏の呼びかけにより実現し、なんと45年ぶりの再会でした。当初は会話にも固さがありましたが、「〇〇の授業」、「〇〇下宿は…」などの会話に当時の記憶が蘇ってきました。4年間時間を共有した学友との会話では、キャンパス内の2号館および3号館、5号館、礼拝堂、研究室の記憶や、下宿周りのこと、多賀城駅周辺の話で盛り上がり、時間の経過も忘れ楽しく貴重なひと時を過ごすことができました。

本同窓会が私に与えた影響はとても大きいものと感じています。同窓会に参加したら、「顔と名前が一致するだろうか」、「知っている学友はいるだろうか」などの不安がありました。しかし、定年などを迎えた今、外に出られる時に出ておかなければ後悔するのではないか？と思い参加しました。いざ、参加してみると当時のことが蘇ってきました。心理学的に、人生の中で記憶が一番鮮明なのは、20歳前後と言われています。まさにその通りで、記憶が蘇り、当時の自分が考えていたことや行動を思い出し、現在の自分と比較や再考する良い機会となりました。同窓会は懐かしいと思うだけではなく、改めて自分自身を見つめ直す機会を与えてくれるものだと感じました。

大学側からは、未来を見つめた「文理融合」を深める五橋キャンパスの設置や2027年4月設置構想中の「未来探究科学部(仮称)」、「教育学部(仮称)」の検討といった少子化に対応する具現策の説明がありました。「国作りは教育から」と言います。では、教育のどこから手を付けるのか？が大きな課題です。その課題に着手した学院大学は、素晴らしいと感じています。

私立大学の定員管理厳格化の影響や緩和および大都市圏への若者流入が複雑に生じている今日です。今後も予測できないことも生じてくるとは思いますが、東北学院の益々のご発展とご活躍をお祈り申し上げます。

〈15回生　清水信昭〉